

和地ひとみレポート No.363

東大和市学校施設長寿命化計画（案） 将来を見据え全体で考えるべき

■東大和市の学校の老朽化の現状は

…市議会定例会初日の本会議終了後、市議会全員協議会が開かれ、教育委員会から「東大和市学校施設長寿命化計画（案）」について説明がありました。
…以前、このレポートでも取り上げたとおり、東大和市では、今後の少子化やエリアごとの児童・生徒数の差をなくすために学校の統廃合と学区の変更を計画しています。この現在ある小中学校 15 校は、昭和 30 年代から始まった高度成長期の人口増加に伴い、昭和 40 年代を中心に順次開校されてきたもので、その施設も当然ながら同時期に建設されています。
…よって、それら学校施設の老朽化も大きな課題となっており、現状、築 50 年を過ぎた学校は 8 校、築 40 年以上の学校も 6 校という状況です。

【東大和市の学校施設の築年数別床面積(㎡)】

- ◆小・中学校の学校施設の総床面積＝約 85,000 ㎡
- 築 50 年以上:32,000㎡（全体の 38%）
- 築 40 年以上:43,000㎡（全体の 51%）
- 築 30 年以上: 8,000㎡（全体の 9%）
- 築 20 年以上: 94㎡（全体の 0.1%）
- 築 10 年以上: 1,000㎡（全体の 1%）
- 築 10 年未満: 863㎡（全体の 1%）

棟単位では

・築30年以上が50棟、20年以上が1棟、合計51棟の床面積は全学校施設の98%、約 83,000 ㎡となる。

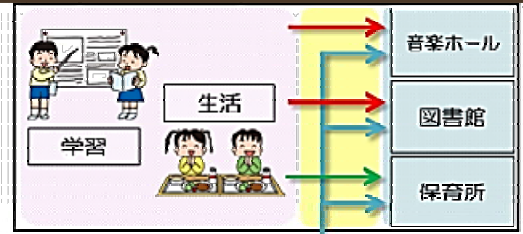
■今まで実施した改修と現状は

…これまでも東大和市では平成 22 年度から平成 26 年度の 5 年間に耐震補強工事など学校施設の改修を様々な実施してきました。その総額は約 29 億 2,600 万円で、5 年間の年平均は約 5 億 8,500 万円（※後述の平均投資的経費）となります。

…学校施設は従来、築 45 年～50 年程度で建替えが行われるものですが、東大和市は耐震補強工事などの補修工事を行うことで学校施設を維持してきました。そして、このような耐震補強工事を実施してきたことにより構造躯体である柱や梁等の健全性については、コンクリート圧縮強度を見ても東大和市の学校施設は長寿命化を図れる状態とのこと。

…また、躯体の健全性に対して影響を及ぼす外壁についても非構造部材の耐震化の一つとして全校改修はしてきましたが、同じく躯体の健全性に影響を及ぼす屋上及び屋根防水については、財政状況等から近年は計画的に改修が実施できておらず、今後の躯体への影響が懸念されるとのことです。

学校施設 の複合化



…そして、学校施設の屋内については、天井をはじめ、間仕切りや壁、床等の劣化も目立っているとのこと。トイレについては、洋式化を進めているところですが、悪臭の原因の一つの排水管の劣化や環境や機能面での劣りも出ている状況のため、構造躯体が安全であることは確認できても、調査の結果、築 40 年以上の建物では、安全上、機能上低下の兆しがみられる C 評価が多く発生しているため、現在の施設を使用し続けるためには長寿命化改修を図るとともに環境や機能面の向上にも配慮した整備が重要とのことでした。

【調査・評価の方法】

劣化状況調査表を用いて構造躯体以外の状況を把握し、屋上；屋根、外壁は目視状況により、内部仕上げ、電気設備、機械設備は部位の全面的な改修年からの経過年数を基本に A、B、C、D の 4 段階(D が一番劣化)で評価。

■長寿命化型改修はコストの問題？

…前述のとおり、従来、学校施設は築 45 年～50 年程度で建替えが行われるものです。しかし、今回、東大和市では建替え計画ではなく長寿命化計画の案を作成。今回示された計画案では、以下の 3 つのコスト比較が提示されましたが、全校建替えでない計画とした大きな理由はコストです。

①全 15 校を築 50 年で建替えた場合

対象建物 53 棟：総床面積 85,000 ㎡
今後 30 年間のコストは総額 495 億円(16.5 億円/年)。
このコストは過去 5 年間の平均投資的経費 5 億 8,500 万円の約 2.8 倍。特に令和 15 年度までの 13 年間は建替えが集中するため、今後 10 年間においては年平均 35 億 4,000 万円の投資的経費が必要となる。

②全 15 校を長寿命化型で改修した場合

対象建物 53 棟：総床面積 85,000 ㎡
長寿命化改修により建物を築 80 年まで使用し続ける方法。今後 30 年間の維持、改修、更新コストは総額 406 億円(13.5 億円/年)。①の建替えの場合より総額 89 億円、約 18%のコスト縮減となるが、このコストでも過去 5 年間の平均投資的経費 5 億 8,500 万円の約 2.3 倍となる。

③3校を建替え、9校を長寿命化型で改修した場合

対象建物 43 棟：総床面積 68,000 ㎡
学校の統廃合により、総学校数を 12 校(3 校減らす)として、統合する学校 3 校のみ建替え、残りの学校を長寿命化型で改修する方法。今後 30 年間の必要経費は 336 億円(11.2 億円/年)で②よりもさらに 70 億円、①よりも 159 億円のコスト縮減となるが、このコストでも過去 5 年間の平均投資的経費 5 億 8,500 万円の約 1.9 倍となる。

(裏面に続く)

…また、上記、①～③のコスト比較のうち、③の“3校を建替え、9校を長寿命化型で改修した場合”のみ、実施する計画のタイムスケジュールが下記の通り提示されました。

【3校を建替え、9校を長寿命化型で改修した場合の計画】

★基本設計 ▲実施計画 ●工事着手 ◎工事完了

(年度)

		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
七小	建替	★	▲	●	◎				
六小	長寿命化		★	▲	●	◎			
五小	建替			★	▲	●	◎		
二中	長寿命化				★	▲	●	◎	
二小	長寿命化					★	▲	●	◎
一小	長寿命化						★	▲	●
四小	長寿命化							★	▲
一中	建替								★

■国全体が長寿命化にシフト

…学校だけではなく、様々な公共施設やインフラが老朽化しており、それらの更新の課題は東大和市だけではなく、日本全国の大きな課題となっています。さらに、現在は、国、地方ともに財政的に厳しい状況です。そこで文部科学省は「厳しい財政状況の下で効率的・効果的に老朽化対策を進めるためには、従来のように建築後40年程度で建て替えるのではなく、コストを抑えながら建て替えと同等の教育環境を確保することができ、排出する廃棄物量も少ない新しい方法として『長寿命化改修』への転換が求められている」という方向を示しています。…文科省は平成26年6月から有識者会議による検討を実施し、長寿命化改修の具体的な手法やノウハウについて解説した手引を作成。そして、今年度末までに学校設置者である地方自治体（＝東大和市）に学校施設長寿命化計画を作成するよう通知しており、国からの補助金も長寿命化改修に対し手厚くすることを示しています。…全国的にみても学校施設は公共施設の約4割を占めており、東大和市でも、公共施設の総床面積の58.8%が小・中学校施設と大きな割合を占めています。東大和市では平成29年2月に「東大和市公共施設等総合計画」を策定し、今後の人口減少や財源などを見据え、市内全体の公共施設の床面積を2割縮減する必要があるという大きな方向性を示しており、学校施設についてもその対象としています。

■これがベストの案なのか

…今回の市の説明は、前述のコスト面についての比較が主なもので「③しか選択肢がない」というような内容でした。財政や人口減少に対応することなどは理解できますが、長寿命化して築80年まで使用としても、改修から30年後にはまた新たな課題が出てきます。それが本当にベストな選択なのか。せめて、12校に学校数を縮減した場合の全校を順次建替えた場合と全部を長寿命化改修した場合のコスト、さらに、それぞれの場合の国の補助金と市の財政負担がどれだけになるのかは示すべき。また、学校1校といっても、本校舎のほかに、体育館やプールといった施設もあり、それぞれの築年数が違うなか、1校ごとに建替えるというのは、1校の全施設の建替えを示しているのか、本校舎のみを示しているのか。…今回の全員協議会では私を含め多くの議員が様々な質疑をしましたが、それらに対する回答は曖昧なものでした。この計画は5年ごとに見直しをするとされていますが、今回示された案は“今年度末まで作成しなくてはならない”という文科省の求めに対応するために作成した感が否めず、この計画がベストなのか判断するための情報が少なすぎると感じました。

■将来、どういう東大和市にしていくのか

…この「東大和市学校施設長寿命化計画（案）」では令和5年、すなわち3年後から学校の建替えを進めることが示されています。東大和市では公民館や図書館、体育館や市民プールなど多くの公共施設は学校と同様に老朽化しています。文科省の先進事例では、保育園や公民館、図書館などと学校を複合施設化することも示されているように、東大和市でもそのほかの公共施設の長寿命化や建替えと合わせて計画を作成すべきではないかと思えます。…学校の長寿命化計画は文科省からの求めで作成していますが、それは教育委員会が作成しなくてはならないということと同義ではありません。学校や公民館の運営や管理は教育委員会が担当していますが、設置者はあくまでも市長部局です。公共施設全体を見渡すという点でも市長部局が全体を捉えて計画を作成すべきです。…そして、新型コロナウイルス感染症により少人数学級の必要性も文部大臣が言及していることや、保育園や学童保育のニーズの高まり、そして市民協働のための市民活動の場の必要性など、将来を見据えた公共施設のあり方を踏まえた市内全体の計画の中に学校施設の対応を含めるべき。老朽化した学校施設だけにこれだけ大きな財源を使って建替えや改修をすることは課題を“点”で解決しているだけのように感じます。将来、東大和市をどのような街にしていくのかという大きな“面”で課題を解決する計画にすることが、住みたいまち、住み続けたいまちを作るうえで必要です。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。コロナ禍において、駅頭での配布は一時、控えております。

【プロフィール】「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」



東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。『学校』の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在3期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102